

そらのとり

岩見沢聖十字幼稚園だより No. 9

2020年2月19日発行

2月の聖句『どんなことにも感謝しなさい』テサロニケの信徒への手紙 5:18より

どんなことにも感謝しなさい。(Iテサロニケ5:18)

忘れえぬ写真に旧ソ連の子供たちが手を高く上げて降ってくる初雪を喜んで迎えているスナップがあります。わたしなどは、初雪といえば冬の到来のしるし、負の感情を抱くのですが。

しかし、子供たちは素晴らしいのです。

子供たちは言います。「雪がふって、うれしいよ。だって、ソリやスキーもできるし、雪だるまも作れるよ」。

このことから、マイナスと思えるような出来事にも、創造や成長のチャンス、喜びの発見が隠されていることを知られます。



初めて歩くスキーもたくましく



どの子どもとも楽しみにしていてあるスキーを、おうちで購入したい!と話している子どももいるほどです。



今年も歩くスキー協会の皆さんが毎回10人も来て下さり、子どもたちのがんばりをサポートに下さっています。

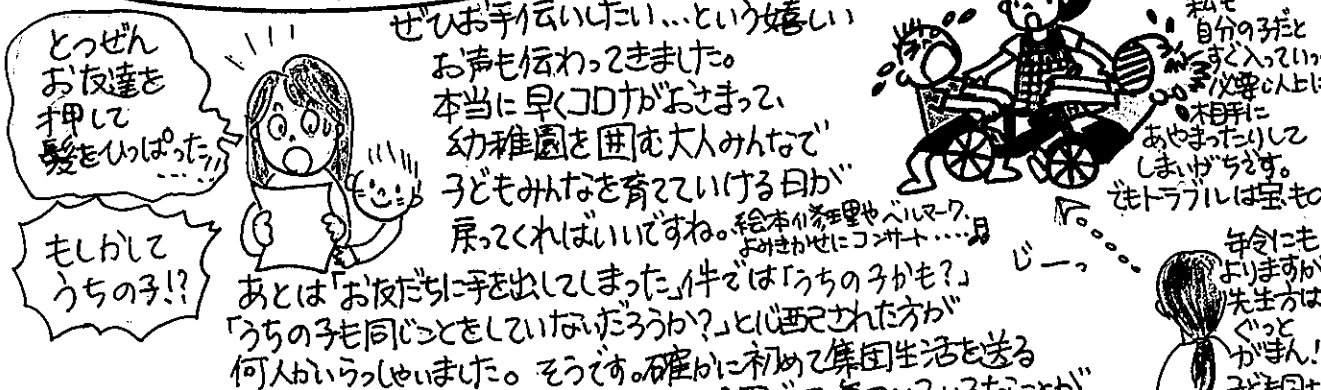
年中さんの歩くスキー第10回といえは、わんわんと泣いてたイメージがあったのですが、だんだん変わってきていますね。

「お話を心に受けとめて、ちゃんと頑張ったんだね。」

自分の先生によると「どうして年中さんはスキーあるの?」と子どもたちからきかれ、「みんなは大きく成長してとても遅くなって、ちっと転んでも泣かないし、立ち上がれるくらい強くなったから年長さんみたくスキーに挑戦できるんだよ」と話したそうです。その言葉の通りの成長ぶりを見せてくれたということですね。

先日、アンケートを集計したものをお配りしたところ、たくさんのお返事がありました。

保護者アンケートから



「手作りおやつ」復活するなら、ぜひお手伝いしたい...という女嬉しいお声も伝わってきました。本当に早くコトがおさまって、幼稚園を園生大人みんなで子どもみけを育てている日々が戻ってくれればいいですね。

あとは「お友だちの手を出してしまった」件では「うちの子か?」「うちの子も同じことをしていないだろうか?」と心配された方が何人いらっしゃいました。そうです。確かに初めて集団生活を送る幼稚園では、毎日いろいろなことがおこります。成長につれて、自分の体と興味が出てきて、友だちの反応に興味が出てきて、いじわるを試してみたり...

「かくしてやれ」「あー、OOちゃんか!」「いやくてよお!」

生まれて初めての集団生活です。何らかの原因があるとまだ思い通りにしゃべれないときには手が出てしまいますし、成長が進むと、先生が見ていないときに手のこんだ言動で表現することもあります。

他の幼稚園の例では、こんなお友達もいました。



目が合った子を、すぐたたいてしまう子

よくよくきくと、予想がつかないことが多くて防衛していたとわかり...

先生が何度か教えていくと安心して人と関われるようになった

子どもたちの行動には原因があります。そばにいる大人がそれに気づいてきめ細やかに手助けすると解決していきます。



「ちっちゃい子も大きい子もみんなが学んでいきます。」

「こうしたらいいんだよ、これはした方がいい。」

「わかんない?」「いたい、いたい、ごめんね、しょうね。」

「わかんないんだよ、どうしてかな?」「原因があるんだよ。」

「いっしょにいか!」「いつか先生が優しくなってくれるよ。」

「トラジには成長の途中でいろいろな事がおこります。先生方も何かがないよう日々成長を続けていますので、どうかまがまが育つ、おての子どもの姿を愛して下さいませようとお願ひします。」